

平成4年度

和歌山県名匠表彰受賞者

敬称略

和歌山県名匠

おか だ のぼる
岡 田 昇

経歴及び業績

昭和18年尋常高等小学校卒業後、父であり師と仰いだ故岡田虎次郎氏の指導で漆器木地師の道に入り、伝統技術を受け継いだ。

昭和57年、父の死後、“岡虎”の屋号を継承し、この道一筋に紀州漆器の木地づくりに励んでいる。

漆器は、木地、下地、塗り、加飾などの工程を経て製作される。

木地づくりが製品の良否を左右するため、木地師は、目立たないが最も基本的な仕事であり、高度な技術を必要とする。

近年、生活様式の変化に伴って木地素材も変わり、最盛期には130軒余りあった木地業者が現在では数軒を残すのみとなっている。

そうした中において氏は、伝統産業を守るという一途な心で永年研さんを重ね、素材の選択から板切り、削り、留付けなどの工程において、卓越した技術を発揮し、業界の信頼を得ている。

氏の製品は、短冊箱、重箱、祝い膳などが主で、その他美術工芸品にも多くの実績を残し、昭和63年、伝統工芸士（伝統的工芸品産業振興協会）の認定を受けている。



職 種 漆器木地師